春の雨と夏季の颱風*

橋本清美

筆者の居る石垣島に於ては春季の降水量の多少が颱風の強度に關係するといふ俚言がある。これを大正 10 年より昭和 13 年間の材料についてすこしく調べて見た。第 1 圖には横軸に最大風速を、縦軸に 3, 4, 5 月の降水量の平均をとつて記入した結果を示してある。この兩者の間には双曲線關係があり略

$$v = 8.3 + (1.4 \times 10^4) p^{-0.963}$$

で表はされる。こゝに v は最大風速、 p は降水量である。この式よりの計算値と實測値を比較するとかなりよく一致し兩者の相關係数は -0.694 ± 0.082 となる。即ち當地の俚言は確かにあると云ふ結論に達する。しかば降水量の多少が颱風の強度に關係するとは一體何を意味してゐるであらうか。筆者の考へではこれは上層氣流の消長に影響されてゐるものと思はれる。それで 3, 4, 5 月の 3000 米の平均推算等壓線を作つて見た

所、大陸と太平洋南部の氣壓差が大である場合には石垣島の雨が少い傾向が認められた。

即ち今パラオと上海の 3000 米の氣壓差(推算値)と降水量との關係を圖示すると第 2 圖の如くなる。これを換言すれば上層の西風が發達してゐる場合に降水量が多いといふことである。又氣壓差と最大風速の關係を那覇に就いて調べて見ると第 3 圖に示す如く確にかなりの相關關係がある。これ等の關係を綜合して見ると結局春季の上層流が發達してゐ

るとこれが颱風季節迄持續し、發生した颱風は低緯度に於ては上層の東風の爲に西進し、中緯度に接近したものは西風の爲に東進すると云ふ事らしい。即ち此の様な場合は南西諸島方面には強度の颱風は接近しないから最大風速は小になると考へられる。そして此の地方で云はれて居る俚言も確かに此の様な考への下に根據のある事實と考へられる。

* K. Hasimoto: Spring Rain and Summer Typhoon.